



福岡県議会議員 (筑紫野市選出)

はら たけ いわ み

原竹岩海

見える県政!

県政報告

第46号

7.5 東峰村・旧杷木町で豪雨災害発生



7/18 県議団東峰村視察 渋谷村長より現地状況説明

九州北部豪雨災害により、被災されました皆様に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

福岡県議会も県と共に、復旧復興の早期実現を目指し、懸命の努力をいたして参ります。

平成29年7月5日、昼頃から夜にかけて九州北部で局地的に非常に激しい雨が降り、福岡県(朝倉市・東峰村)・大分県(日田市)に九州地方では初めての「大雨特別警報」が発表されました。気象庁のレーダー解析(24時間解析雨量)では、福岡県朝倉市で約1,000mm、大分県日田市で約600mmの記録的な豪雨となり、各地で甚大な被害が発生しました。

本県では、33の方が犠牲となられ、今尚5人の方が行方不明であります。県内の災害額としては、戦後最大規模の2千億円にも達しております。また、500人近い方が避難生活を余儀なくされておられます。また、この間、昼夜を問わず復旧に尽力されておられます自衛隊員、広域の消防職員、警察官、県職員、関係市町村の職員、ボランティア等の皆様方に心から感謝と敬意を申し上げます。

## 九州北部豪雨災害復旧費・復興等 687 億 9600 万円補正額を公表

(福岡県平成29年度一般会計補正予算案 災害対策費は過去最大)

福岡県は、9月11日に開催される9月議会に、総額687億9600万円を増額する一般会計補正予算案を上程することを公表しました。その内、643億円余は豪雨災害の復旧・復興対策費で、災害対策費としては過去最大規模となっています。

主な対策費としては、道路・河川及び砂防施設関連に346億5600万円、農用地・林道関連に98億4600万円、今後も大きな林地崩壊が予測される危険地域に対応することを目的とした砂防ダム建設費として70億9000万円、林地崩壊の被害を拡大させないための治山ダム建設費として48億4300万円、大量な流木の撤去費用として9億2300万円などとなっています。

一方、被災された皆様の支援対策としては、応急仮設住宅(1,000戸)の設置、及び、民間の家屋借り上げ「みなし仮設住宅」の費用として、11億1200万円、被災された中小企業に対して低利で特別融

資を実施することにより、廃業や倒産を防ぐことを目的とした経費約5,000万円、被災された要介護者及び要支援者の皆様に、旅館・ホテル等を無料で提供する費用として、11億円余、この他にも被災地への旅行・宿泊料金を割り引く「ふくおか応援割」、農林業再生に取り組むボランティア団体への支援、伝統工芸を守るため小石原焼の共同窯建設に向けた支援などが計上されています。

本補正予算案に関して、福岡県議会民進党県政クラブ県議団も対策本部を設置し、ボランティア活動はもとより、吉村敏男会長をはじめ、会派の全議員で被災地を視察し、東峰村の渋谷村長など現場での陳情を受け、小川知事をはじめ、県行政に対して具体的に要請行動を行いました。

この度の補正予算では、災害対策費として私共の多くの要望が具体的に取り入れられました事に対しまして、高く評価するものであります。